

**地域防災減災センター2021年度
信州における防災減災プロジェクト 支援事業
成果報告書**

(令和 4 年 4 月 28 日)

〔1〕 報告者情報			
フリガナ	ヒロウチ ダイスケ		所属部局 職 名
研究者氏名 (代表者)	廣内 大助		
研究プロジェクト名	令和元年東日本台風における千曲川流域学校の避難所状況調査とその試行的対策		
支援金額	200,000 円		

本成果報告書および別紙のポンチ絵や写真等についてはセンターHPなどで公開を予定しているため、適切な範囲・内容で記載してください。

〔2〕 研究概要・成果
<p>1. 研究概要 本研究の目的は、令和元年東日本台風で被災した千曲川流域の学校の避難所運営に関する実情を把握した上で、その対策を考え可能な範囲で試行的対策を行うことである。まず避難所となった学校について、アンケート調査を行って対応や内容を時系列的に整理し、その結果を踏まえて松本市の指定避難所となっている教育学部附属松本小学校を対象に試行的な対策を施した。さらに研究結果をフィードバックする形で地域住民を交えたイベントを開催し、その理解を促すことを試みた。</p> <p>2. 避難所となった学校におけるトイレ問題 アンケートから、長野市内で避難所となった学校は23校あり、全体のおよそ29%を占めていた。このうちすべての学校において教職員が避難所開設・運営に携わっていた。避難所となった学校の約半数で何らかのトラブル等が発生しており、なかでもトイレに関する課題が多くみられた。具体的には、避難所として開放された一部の学校の体育館には洋式トイレがなかったこと、洋式トイレがあっても数が少なく、高齢者等の避難者が使用するうえで不便であったこと等が分かった。10月12日の発災から、最長で12月3日まで避難所開設されていた学校が3校あり、こうした長い避難生活の質を担保するうえで、特にトイレなど避難所の衛生環境の問題を解決することは重要な課題であることが分かった。</p> <p>3. 信州大学教育学部附属松本小学校での試行的対策およびイベントの実施 そこで今回抽出された避難所での課題について試行的に対策するため、指定避難所である信州大学教育学部附属松本小学校に洋式の災害対応型トイレおよび多目的室、バリアフリー導線等を導入し、避難所生活における活動全般に制約が生じやすい要支援者に配慮した避難所設備を設置した。導入した洋式トイレは、断水時でも1リットルという少量の水で流せるうえに通常のトイレと同じように使用できる点で、要支援者が安心してトイレを利用できる利点がある。また、誰もが使用できる多目的室や1階部分へのスロープの導入も行い、避難所生活の基本となる活動導線の改修を行った。これら設備は日常の学校生活においても使用され、防災教育の教材にもなりうる。こうした研究結果をフィードバックするため、要支援者に配慮した避難所運営をめざした取り組みについて地域住民や学校関係者に理解を促すイベントを附属松本小学校にて開催した。保護者、地域住民、学校関係者、報道機関等が現地にて参加し、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行った動画配信については全国から参加があり、成果について広く発信することが出来た。今後は避難所開設時の初動マニュアルについて地域・学校・行政・企業と協働して作成し、実効性のあるものとするための訓練等を行う予定である。</p>